

24年漁期 TAC(漁獲可能量)設定の考え方

資料2-4

(単位:万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit(日本EEZ)					TAC				備考	
		水準	動向	21年	22年	23年	24年	漁獲シナリオ (管理基準)	21年	22年	23年	24年 (案)		
すけとう だら													<p>【TAC設定の考え方】</p> <p>【日本海北部系群】 資源回復計画(努力量削減、小型魚保護等)と組み合わせた資源管理を実施。資源が低位で横ばい傾向にあり、漁業経営におけるスケトウダラへの依存度が高いことを踏まえつつ、TAC(案)は23年漁期と同量の13,000トンとする。(北海道知事管理分の一部(1,000トン)については留保)</p> <p>【オホーツク海南部】 ロシア水域とのまたがり資源であることから、最大の来遊状況に対応できるよう、近年の最大漁獲量36,600トン(22年漁期)をベースに、TAC(案)37,000トンとする。(またがり資源であることから、漁期中に当初の想定を上回る状況が見込まれた場合には、期中改定が有り得る。)</p> <p>【根室海峡】 ロシア水域とのまたがり資源であることから、最大の来遊状況に対応できるよう、近年の最大漁獲量(実績値)11,960トン(22年漁期)をベースに、TAC(案)12,000トンとする。(またがり資源であることから、漁期中に当初の想定を上回る状況が見込まれた場合には、期中改定が有り得る。)</p> <p>【太平洋系群】 資源全体として中位で横ばい傾向にあり、親魚量は良好な状態で安定的に推移していることに加え、広範な分布域において漁場形成が毎年大きく変動することや漁業経営への影響も勘案し、TAC(案)は前年と同量の171,000トンとする。ただし、23年漁期に沖合底びき網漁業及び北海道において先行利用(11,000トン)を配分していることから、先行利用の漁獲実績に応じてTAC数量を減じる予定。</p> <p>※ TACの管理期間は、すけとうだらは、「4月～翌年3月」</p>	
	日本海北部	低位	横ばい	0.93	0.97	0.71	0.77	親魚量の増大 (④)	1.6	1.6	1.3	1.3		
	オホーツク海南部	低位	増加	-	-	-	-	-	-	2.7	2.8 (5.2)	2.8 (5.2)	3.7	
	根室海峡	低位	横ばい	-	-	-	-	-	-	1.0 (1.3)	1.1 (1.5)	1.1	1.2	
	太平洋	中位	横ばい	12.2	13.0	14.9	15.2	2005、2006、 2008年度の平均 漁獲圧の維持 (⑤)	17.1	17.1 (18.2)	16.7 (*18.6)	17.1		
合計			基本数量:17.1万トン 先行利用(実績)4千トン(北海道)減						22.4 (22.7)	22.6 (26.5)	21.9 (26.2)	23.3	注: * 印は端数処理にともないABC増加値と異なる	

注)1 オホーツク海南部及び根室海峡については、詳細な生態や資源状況が不明なことから、ABCの算定を行っていない。

2 太平洋については、22年に先行利用を実施し、実績分を23年当初設定時に減。また、23年においても先行利用及び期中改定を実施。

3 下段()書きについては、期中改訂後の数量。

資源評価結果

すけとうだら	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2012年 漁獲量 (千トン)	評価			2010年 親魚量	Blimit
	水準	動向				10年後に Blimitへ回 復する確率	10年後に 2006年度 親魚量を上 回る確率	10年後に Bbanを下回 る確率		
日本海北部系群	低位	横ばい	<Blim	ABClimit					47千トン	140千トン
				① 親魚量の増大(10年でBlimitへ回復)(Frec10yr)	—	—	—	—		
				② 親魚量の増大(20年でBlimitへ回復)(Frec20yr)	2.9	5%	89%	0%		
				③ 親魚量の増大(30年でBlimitへ回復)(Frec30yr)	4.6	2%	68%	1%		
			*④ 親魚量の増大(わずかでも親魚量を増大)	7.7	0%	32%	12%			

すけとうだら	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2012年 漁獲量 (千トン)	評価		2010年 親魚量	Blimit
	水準	動向				5年間Blimit を維持する 確率	10年間 Blimitを維 持する確率		
オホーツク海南部	低位	増加	—	—	—※1	—	—	—	—
根室海峡	低位	横ばい	—	—	—※2	—	—	—	—
太平洋系群	中位	横ばい	>Blim	ABClimit				307千トン	151千トン
				*① 経験的に適度な漁獲圧による漁獲(F0.1)	80	100%	100%		
				*② 資源量の維持(Fsus)	117	100%	97%		
				*③ 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	128	100%	76%		
				*④ 親魚量の維持(≥Blimit)・漁獲量の増加(1.1Fcurrent)	138	95%	51%		
			*⑤ 2005、2006、2008年度の平均漁獲圧の維持(Fave3-yr)	152	60%	23%			

※1 オホーツク海南部については、当資源は、成長の一時期にオホーツク海南部水域を利用していると推測され、当海域に限定したABC算定は困難であることから、ABCの算定は行っていない。

※2 根室海峡については、既存の情報からは資源量の算定が困難なことから、ABCの算定は行っていない。

※3 *のついたシナリオが中期的管理方針に合致する。